経営計画　概要版

令和７年度　港区立白金小学校　学校経営計画

校長　髙山　直也

国連・OECD・国際情勢

平和・人権・地球環境　→　SDGs

学習指導要領・教育振興基本計画・こども大綱

◆持続可能な社会の創り手の育成
◆日本型 Wel-being の向上
◆権利の主体も、学びの主体も子ども

学校教育目標

個性的で創造的な行動と協調的で愛情あふれる行動ができ、広く国際社会において信頼と尊敬の得られる人間を育てる。

Our School Mission

東京都教育大綱

誰一人取り残さない教育
共感・思いやり→共生社会の実現

港区学校教育推進計画重点事業

◆国際理解教育の充実
◆ICT を活用した学びの充実
◆基礎学力・活用力の習得
いじめ防止、健康な体
環境教育、教員の働き方改革

白金の校風・地域

歴史と伝統　時代の先端　区のパイロット校　文教地域　自然環境　質の高い教育環境と教職員

Platinum　Pride

人間、地球、平和を大切にし、
持続可能な社会の創り手となる人材を育てる学校

≪　１５０年の縁をつなぎ、未来へ一丸白金小学校　≫

すべての教育活動は、ここに結び付く

自他を生かし、幸せな場や環境をつくる力

協働して持続可能な社会をつくる力

人権・平和

◇道徳の授業の充実
◇キャリア教育とリンクした学び
◇他者理解・多様性の尊重活動
◇児童自らいじめをなくす取組　ハピプロ　児童主体
◇児童自ら計画して取組む（楽しい）活動・イベント　連帯感・成就感・達成感　児童主体

体験的経験的な学びの重視
↓
コラボ授業
ゲストティーチャー

交流を通した協働・共生の取組

安定した環境づくり

白金（学習・生活）スタンダード
↓
ブレない共通行動・指導

◇教科担任制
◇学年担任制
◇副担任制
◇教科交換
◇１年生プレクラス制
↓
☆One Team 対応　協働
☆目標の共有・一元化
☆専門性と深い学び
☆多様な相談対応が可能

自ら学ぶ力・SDGs

デジタルとリアルを往還し自ら学ぶ力を身に付ける

◇個別最適な学びと協働的な学びを一体で充実させた「複線型学習」「自由進度学習」の充実　児童主体
‖
校内研究

体験的経験的な学びの重視
↓
見学・体験
コラボ授業
ゲストティーチャー

◇学習ツールとしてICT の高度な活用

地域資産を生かす

◇１５０周年を最高の学習機会ととらえ、学習発表会で学びを昇華する。

Well-being

多くの体験・経験を！　キーワード「行く」「呼ぶ」「かかわる」

目指す児童像

自他を生かし、幸せな場や環境をつくる児童

自ら学び協働して解決しようとする児童 → 協働して持続可能な社会をつくる児童

○笑顔であいさつ、感謝の意を表す子
○分かり合い、生かし合う子
○いじめをなくす努力をする子
○場に応じた社会的なきまりを守る子
○誰もが幸せになれる場をつくろうとする子

○よく聞き、学び、伝え、表現し、高め合う子
○ＩＣＴ機器を活用し、自ら学習課題を解決する子
○ＳＤＧｓの課題を考え、行動する子
○英語に親しみ、自国や他国の文化を尊重する子
○体を動かし、心身の健康のために努力する子

～子供たちには分かりやすく「あ・い・う・え・お」～

◆「あ」あいさつ　→相手意識・コミュニケーションの原点
◆「い」一生懸命勉強　→知
◆「う」運動　→体
◆「え」笑顔　→徳
◆「お」お友達にやさしく　→徳

目指す教職員像

自他を生かし、幸せな場や環境をつくる教職員

自ら学び協働して解決しようとする教職員 → 協働して持続可能な社会をつくる教職員

○笑顔であいさつ率先垂範、願いを受け止め、誠意をもって対応する教職員
○子供のために努力を続ける教職員
○職場はワンチーム、他者を思いやり、幸せな職場をつくる教職員
○子供が自らいじめをなくす実践を支える教職員
○子供の人権を尊重し、厳しくも温かな児童に寄り添った指導を実践する教職員
○子供の自主性を生かした楽しい活動を進める教職員

○研究、研修、実践を進め、高め合う教職員
○ＩＣＴ機器を使い、子供の学びを深化させる教職員
○複線型・自由進度学習を通して、子供が自ら問いを立て、自己調整しながら学習を進める授業に取組む教職員
○ＳＤＧｓの課題を共に考え、子供の行動を促進させる教職員
○英語に親しみ、自国や他国の文化を尊重する教職員
○体験を重んじ、「行く」「呼ぶ」「かかわる」実践を進める教職員
○体を動かし、心身の健康のために努力する教職員

○保護者・地域と共に互いを認め尊重し、協働して子供を育てる教職員

～チーム白小、協働・協育・協生～

安心、安全、安定した学校を目指します

経営計画　詳細版

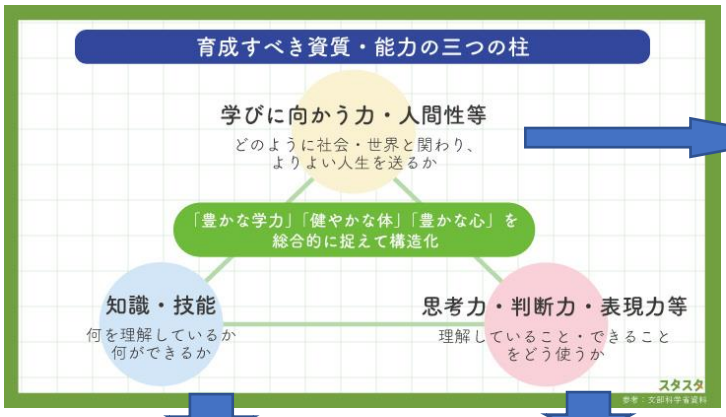
令和７年度　港区立白金小学校　学校経営計画　　校長　髙山　直也

１　白金小学校の教育目標と経営の背景

≪教育目標≫
個性的で創造的な行動と協調的で愛情ある行動ができ、
広く国際社会において信頼と尊敬の得られる人間を育てる
≪合い言葉≫
自分を見つめまわりも見つめ　人を生かし自分も生かし　めあてをもって努力を続ける

(1)学習指導要領

前文
自分のよさや可能性を認識するとともに，あらゆる他者を価値のある存在として尊重し，多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え，豊かな人生を切り拓ひらき，持続可能な社会の創り手となることができるようにする。

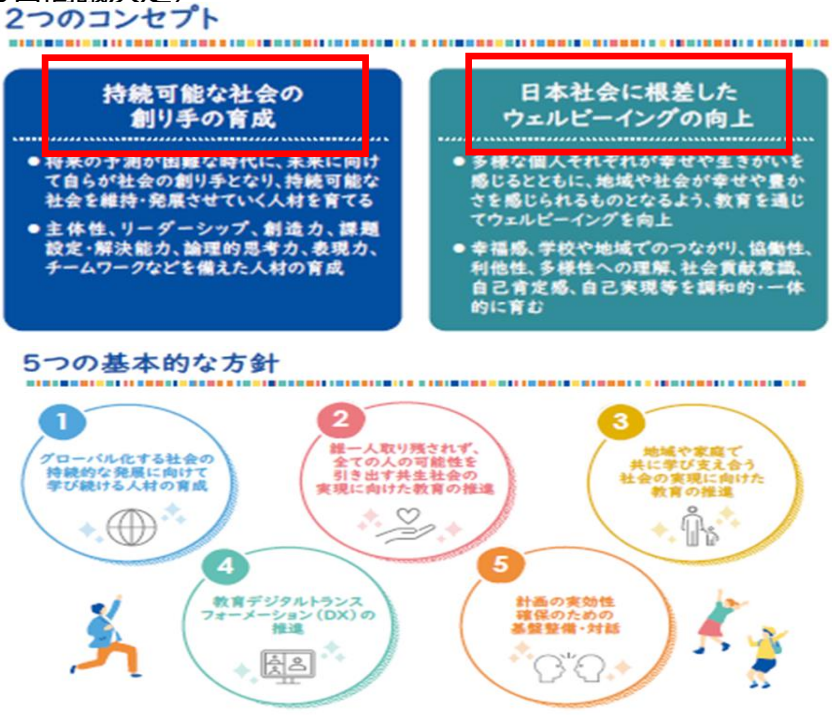


★主体的に取り組む態度も含めた学びに向かう力
★様々な人々と、互いの良さを引き出しながら協働する力
★持続可能な社会づくりに貢献する力
★リーダーシップやチームワーク、豊かな感性や他者への思いやりの心などをもち合わせた人間性も含まれる

生きて働く知識・技能

☆問題解決の思考力　☆結論を決定する判断力　☆伝えるための表現力

(2)教育振興基本計画(令和5年6月16日閣議決定)



(3)東京都教育施策大綱

＜ 東京のめざす教育 ＞

誰一人取り残さず、すべての子供が将来への希望を持って自ら伸び、育つ教育

＜ 東京の目指す子供の姿 ＞

☆ 自らの個性や能力を伸ばし、様々な困難を乗り越え、人生を切り拓ひらいていくことができる子

☆ 他者への共感や思いやりをもつとともに、自己を確立し、多様な人々が共に生きる社会の実現に寄与する子

＜ 3つの「学び」＞

○ 子供の個性と成長に合わせて意欲を引き出す「学び」

○ 子供の成長を社会全体で支え、主体的に学び続ける力を育む「学び」

○ ICTの活用によって、子供たち一人ひとりの力を最大限に伸ばす「学び」(教育 DX)

(4)港区学校教育推進計画 令和3年度～8年度 (令和6年3月改定)

＜ 港区の目指す子供の姿 ＞

夢と生きがいをもち、自ら学び、考え、行動し、未来を創造する子ども

＜ 学校経営の視点 ＞

1 子どもたちが安全で安心して過ごすことができる学校づくり

2 子どもたちがいきいきと楽しく学ぶことができる学校づくり

3 保護者や地域に信頼される学校づくり

＜改定の方向性＞

(1)自らが国づくり、社会づくりの主体となれるようその基盤となる、「徳」「知」「体」を育み、一人ひとりの個性を伸ばす教育を推進する。

(2)未来への先行投資を行い、「知」の世紀をリードする創造性や未来を拓き、生き抜く力を育成する。

(3)家庭や地域との連携を深めるとともに、港区の特性を生かした特色ある教育を推進し、世界に貢献できる人材を育成する。

(4)教員の働き方改革とともに学校の教育力の向上を図り、子どもたちが安全・安心に、いきいきと学び、健やかに成長していくことのできる教育環境を整備する。

＜重点事業＞

計画後期である令和6年度から8年度までの3年間は、「7つの取組強化重点事業」として取り組んでいき、さらに令和7年度は、下線の3つが取組強化の3事業である

「国際理解教育の充実」・「ICTを活用した学びの充実」・「基礎学力・活用力の習得」

「いじめ防止推進事業の充実」「健康な体づくり」「環境教育の充実」「教員の働き方改革の推進」

(5)世界情勢

○世界的に自国の権益だけを追求する全体主義の傾向が強まる。ウクライナ戦争の長期化、ガザ地区の紛争・シリア崩壊、アジアでは北朝鮮のミサイル発射等、平和と安定には程遠い情勢が続く。

○地球規模の温暖化が進み気温が上昇、北極海や南極海の氷山・氷河の崩壊をはじめ、高温多雨の世界的現象、砂漠化の進行、海洋汚染・森林破壊等、人間を含む生物が生息することが困難な状況が生まれている。

○世界中で差別や貧困がなくならず、児童虐待も含め人権問題が根絶される気配がない。

２　本校の目指す教育

Platinum　Pride　　人間、地球、平和を大切にし、

持続可能な社会の創り手となる人材を育てる学校

≪　１５０周年の縁をつなぎ、未来へ一丸白金小学校　≫

(1)目指す学校像＝　↑　＝日本一の学校

本校は開校150年目の節目を迎える伝統校である。地域の方や保護者は、本校は昔からの名門であり、伝統とともに常に先進的な教育活動を行っているという誇りがある。その期待に応え、さらに発展させるべく上記の目指す学校像を掲げ、地域・保護者と連携し、白金小学校を日本一の学校にしていく。

(2)目指す児童像

目指す児童像は学年・学級経営の柱となり、
目指す教職員像は、教職員自らの評価・振り返りとなる

自他を生かし、幸せな場や環境をつくる児童

◇笑顔であいさつ、感謝の意を表す子　◇分かり合い、生かし合う子
◇場に応じた社会的なきまりを守る子
◇他者を思いやり、自らいじめをなく努力をする子
◇誰もが幸せになれる場をつくろうとする子

協働して持続可能な社会をつくる児童　←　友達や様々な人と協働して、自ら学び解決しようとする児童　＝　学ぶ力

◇よく聞き、学び、伝え、表現し、高め合う子　◇ＩＣＴ機器を活用し、自ら学習課題を解決する子
◇ＳＤＧｓの課題を考え、行動する子　◇英語に親しみ、自国や他国の文化を尊重する子
◇体を動かし、心身の健康のために努力する子

(3)目指す教職員像

自他を見つめ、生かし、幸せな場や環境をつくる教職員

◆笑顔であいさつ率先垂範、願いを受け止め、誠意をもって対応する
◆子供のために努力を続ける　◆ワンチーム、他者を思いやり、幸せな職場をつくる
◆子供が自らいじめをなくす実践を支える
◆子供の人権を尊重し、厳しくも温かな児童に寄り添った指導を実践する
◆保護者・地域と共に互いを認め尊重し、協働して子供を育てる
◆子供の自主性を生かし楽しい活動を進める
◆チーム白小、協働・協育・協生を軸に、安心、安全、安定した学校を目指す

協働して持続可能な社会をつくる教職員

◆研究、研修、実践を進め、高め合う　◆ＩＣＴ機器を使い、子供の学びを深化させる
◆複線型・自由進度学習を通して、子供が自ら問いを立て、自己調整しながら学習を進める授業に取組む教職員　◆ＳＤＧｓの課題を共に考え、子供の行動を促進させる
◆英語に親しみ、自国や他国の文化を尊重する
◆体験を重んじ、「呼ぶ」「関わる」「出かける」実践を進める
◆体を動かし、心身の健康のために努力する

３　中期的経営目標と方策

「人間、地球、平和を大切にし、持続可能な社会の創り手となる人材を育てる学校」を目指して、中期的な目標として、以下の4つを児童に育てるべき資質能力として設定した。

(1)人権尊重に根差した幸せな場や環境をつくる力

○笑顔で率先してあいさつをし、素直に感謝の意を表す児童を育成する。
○相手を思いやり、協調的で愛情のある行動をとるとともに、公正公平に行動できる児童を育成する。
○児童自らが場や環境、心情を整え、自他共に幸せになれる力を育成する。
○倫理観や規範意識、公共の精神などの道徳心を身に付けた児童を育成する。
○他者を思いやり、自らいじめをなく努力をする児童を育成する。

(2)自ら学び協働して解決しようとする力

○基礎学力を確実に身に付けるとともに、友達や様々な人と協働して、自ら学び解決しようとする児童を育成する。
○SDGsに連なる様々な課題を自分事として捉え、協働して持続可能な社会を創る児童を育成する。
○ICT機器を高度に活用し、個別最適な学びと協働的な学びを往還しつつ、自ら課題を設定し計画を立て、解決していく児童を育成する。
○自らの成長に関心をもち、健康な体づくりを意識して、豊かなスポーツライフを実現する児童を育成する。
○情報モラルを含む情報活用能力を身に付ける児童を育成する。

(3)視野を広くもった国際人としての資質

○国際科の学習を通して、外国語に親しむ態度を養うとともに、多様性を尊重し、他者と共生・協働することができる児童を育成する。
○我が国の伝統や文化の理解や体験を通して、国や地域を愛する児童を育成する。
○自分の思いや考えを表現できるコミュニケーション能力を高めるとともに、自己肯定感の高い児童を育成する。

(4)文化・芸術を尊び、豊かな表現を理解し駆使する力

○合唱団を特設クラブとして組織に位置付け全校で支援するとともに、高いレベルの文化・芸術の体験を通した協働的学びを推進する。
○文化・芸術活動の機会を創出し、あらゆる表現活動の成果を学校内外に紹介し広める。

(5)その他

○PTA役員をはじめとした保護者と連携して、児童の健全育成に努める。
○年間4回の学校運営協議会を開催し、地域と一体となって特色ある学校づくりを目指す。
○学校の教育活動を学校だよりやホームページ、旧 Twitter(X)で積極的に発信する。
○地域人材、企業等、地域の方を授業で積極的に活用する。

4　今年度の重点目標

≪教育目標≫
個性的で創造的な行動と協調的で愛情ある行動ができ、
広く国際社会において信頼と尊敬の得られる人間を育てる。
≪合言葉≫
自分を見つめまわりも見つめ　人を生かし自分も生かし　めあてをもって努力を続ける

重点1　Well-being 安定し幸せな環境・場づくり　　重点2　持続可能な社会の創り手の育成

重点目標1：Well-being 安定し幸せな環境・場づくり　**安定した環境づくり**　**人権教育**

学校は学ぶ場所である。しかし、思考力・判断力・表現力を身に着けるにあたり、学びに向かう姿勢になれるのも、心が安定し、環境が安心・安全・安定している上でのことである。港区学校教育推進計画の先頭が徳育であり、そこに示される学校経営の視点の第一が「安全・安心」であること、さらに本校の教育目標の合言葉も「自己と他者の関係性」であることから、教育のベースは人権尊重であることを示している。

令和5年12月に閣議決定された「こども大綱」には、「こどもまんなか社会」とは、全てのこども・若者が、身体的・精神的・社会的に将来にわたって幸せな状態（Well-being ウェルビーイング）で生活を送ることができる社会と定義している。子供個々の幸せを目指すことはもちろん、子供を取り巻く場や環境を整え幸せにしていくことが、自他の幸福を超えひいては社会全体を幸福に、平和にしていくという考えに基づく。

白金小学校は、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、互いの良さを引き出すことを目指す。さらに、子供たち自身が安定した幸せな環境や場づくり目し、あらゆる場面で人権教育を推進することで、ウェルビーイングの大きな輪を創り出すことを一つ目の重点とする。

重点目標2：持続可能な社会の創り手の育成　**SDGs**　**自ら学び協働して解決しようとする力**

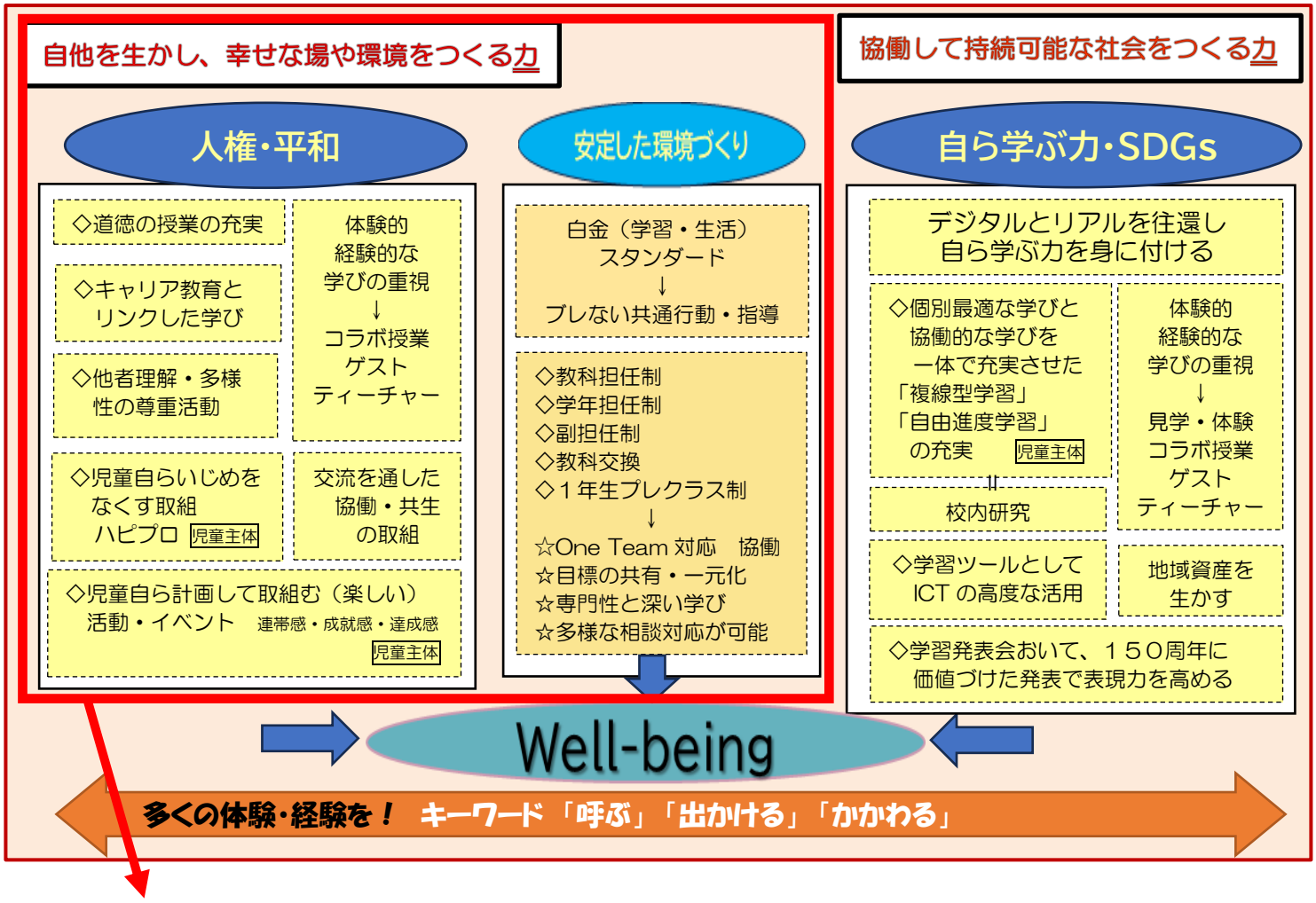
昨今の世界情勢を見ても、戦争・紛争の激化や地球温暖化による気候変動等、地球環境や平和を自らの力で構築・維持していくために、「持続可能な社会の創り手を育てる」教育を展開することが急務である。自分ごととして身近な課題をとらえ、自分たちの力で変えていこうとする力は、やがて社会や地球を変えていく力になる。その学びの過程では、主体的・対話的で深い学びが展開され、友達を含めた様々な人・団体と協働して問題の解決を図ることが不可欠である。

学習指導要領の前文にも、令和5年6月に閣議決定された「教育振興基本計画」にも、「持続可能な社会の創り手の育成」がこれからの教育の根幹を成すことが明記されている。これからの学びは、「持続可能な社会を築くための学び」に集約されていく。

白金小学校は、学校教育目標で「広く国際社会において信頼と尊敬の得られる人間を育てる」ことを明記している。これからの社会において、信頼と尊敬を得られる人間とは、「人間・地球・平和を軸とした持続可能な社会を創るために行動する人間」であると確信する。このことを二つ目の重点とする。

５　教育目標の具現化に向けた方策

（１） 重点目標１：「自他を生かし、幸せな場や環境をつくる児童」を育てるために



安心、安定した環境を整える

① 「あいさつ」と「白金学習・生活スタンダード」の徹底　→　指導の共通行動化

○物事の基本、人間関係の原点、温かい関係づくりの基本である、
『あいさつ』のできる子供に育てる。（意義理解と指導の徹底）　→　あいさつ運動　日常生活

○基本生活習慣（白金スタンダード）の浸透・徹底
きまりやルールを守る指導（当たり前のことを当たり前にやる）
→　共通行動：全教員が歩を一にして同じことを言い、同じ理由を言う

○情報モラル教育　→　ゲストティーチャーの活用　定期的な保護者啓発

② 高学年の「教科担任制」

◎教員の専門性を生かした授業　◎より深い教材研究による充実した学習
→　これにより高学年の授業が安定

③ 高学年の「学年担任制」

◎児童の様子を学年全員で共有、変化に気付きやすく、素早い対応が可能

◎常に学年が一つのチームとなり児童対応できる

◎児童は自分に合った担任と相談できる

→ これにより学級差が生まれにくく、生活指導が安定　教員の孤立感も生まない

④ 全学年の「専科副担任制」

◎より多くの目で児童の様子をつかみ、児童理解につなげられる

◎生活指導のさらなるチーム化が図れる　→ これによりチーム対応と情報交換が進展

⑤ 1年生のプレクラス・仮担任制

◎4月1か月間をプレクラスとし、担任も全クラスを輪番で回ることにより、児童の特性や相性をつかみ、より安定した学級の構築を図ることができる。

◎担任が全ての学級を担任することで、全児童の情報を共有することができる。

→ これによって1年生の学級安定と、全児童の特性共有、保護者の信頼獲得につながる

全ての教育活動で人権教育を推進する
児童自らが、自他・それを取り巻く場や環境を幸せにする力をつける

① 「いじめ防止基本方針」にのっとり、道徳の授業を含め、全教育活動を通し、規範意識、互いのよさを認め尊重し合う心情を育成する。

○道徳地区公開講座	「人権、命、いじめ」についてのテーマで統一授業
○心を耕す校長講話	人権に関する講話を、月1回全校集会や他の機会で取り上げる
○年3回のふれあい月間	児童発信のいじめ撲滅への取り組み（下欄ハピプロ）
○児童自らいじめをなくす	学年が主体となっていじめをなくす活動「ハピプロ」で啓発
○WEBQU調査の活用	年2回の調査内容を分析し、学級経営に活かす
○言葉を大切にした指導	「言霊（ことだま）」「ちくちく言葉」「ふわふわ言葉」等
○合唱団の活動	団員の情操教育みならず、音楽集会等全校での交流で高い芸術性の中で感動を共有し、温か心を育てる。

② Happy Project（通称：ハピプロ）を展開し、児童自ら幸せな場や環境を楽しみながらつくる取り組みを実践し、安心・安全な学校づくりに能動的に参画する意識を育てる。

③ 普段からアンテナを高くして児童を観察し、児童アンケート、投書箱、いじめ・不登校校内委員会によるいじめや不登校の未然防止・早期発見・早期対応・早期解決に努める。

④ 異年齢児童や地域との交流活動により思いやりの心の育成や豊かな人間性の伸長に努める。
また、様々な体験活動を通して、場に応じた社会的な決まりを理解し、自ら人権を守ろうとする心情を育成する。

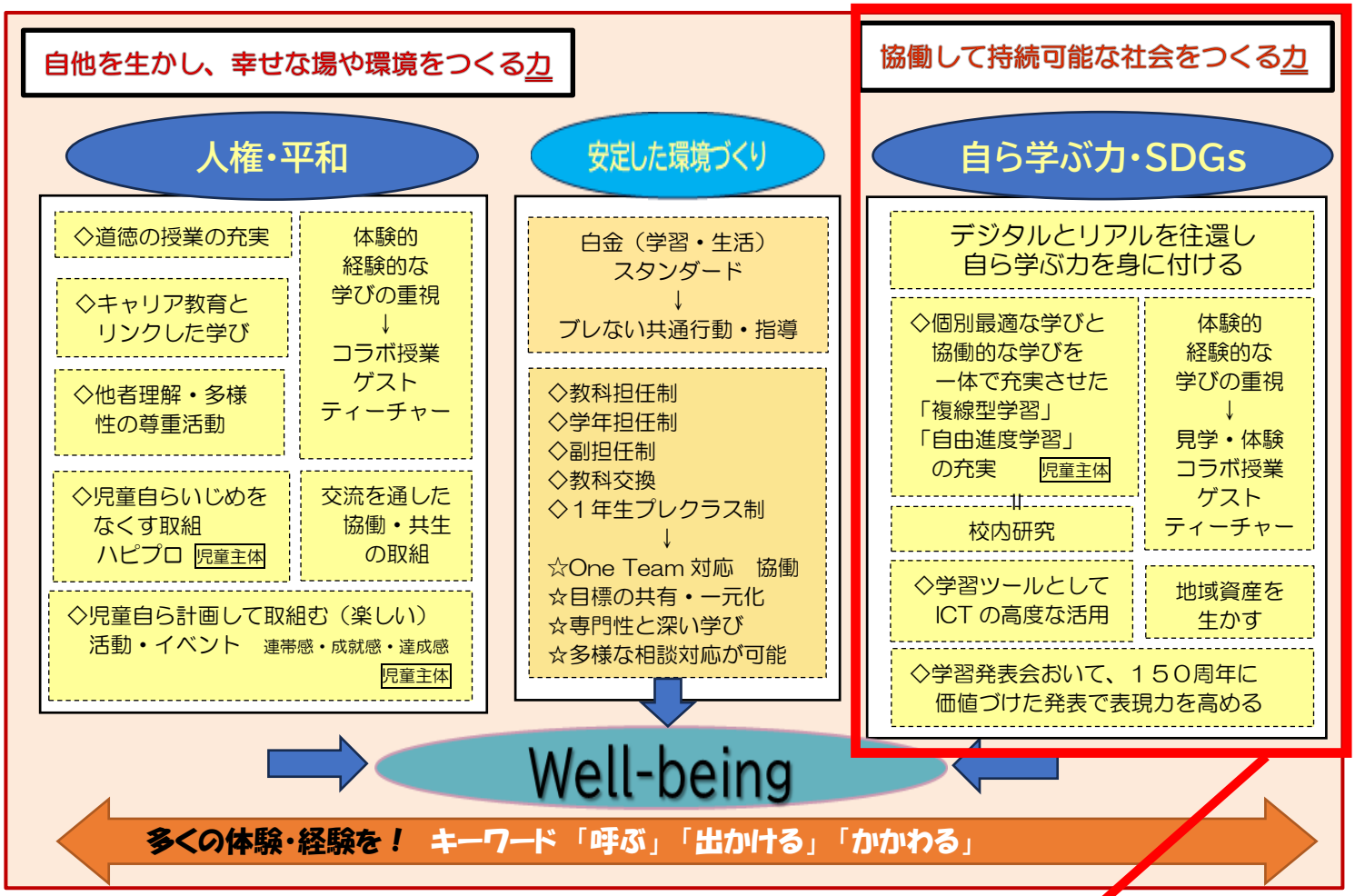
【本校における具体的な活動】

・縦割り班活動（高学年への尊敬と憧れ、下学年へのいたわり）　・地域の方々との交流
・ユニセフ活動　・近隣幼稚園児との交流　・体験活動（伝統や文化、自然体験）
・地域行事への積極的な参加　・企業とのコラボ学習

これらの活動は、必ず、教師が意義を伝え、「めあて」をもたせ、「振り返り」を行う。

⑤ ゲストティーチャーの招へいや期間をとった取り組みを企画し、多角度から人権や相手意識を学ばせる機会を創る。

（２）重点目標２：「協働して持続可能な社会をつくる子」を育てるために



友達や様々な人と協働して、自ら学び解決しようとする力を身に付ける ＝ 学ぶ力

① 全ての教育活動は持続可能な社会の創り手を育成する手段にであることを意識して指導する。また教科指導では、生きて働く知識及び技能の習得、豊かな言語活動を基盤とした問題解決的・体験的活動を通して思考力・判断力・表現力・コミュニケーション能力の育成を図る。

② 学習ツールとしてのICT機器を高度に活用し、個別最適な学びと協働的な学びを併用、自ら課題を設定し計画を立て、解決していく力をつける。また、校内研究では相手意識・目的意識をもった表現力の育成を目指す。 ICT＝重点的な取り組み

③ 国際科では白金スタイルを継承し、英語による言語活動を通して、コミュニケーション能力の基礎を培う。また、身に付けた英語力を実際に使う場を設定する。さらに、日本文化を体系的・体験的に学び、国際人としての素養を形成する。 国際科＝重点的な取り組み

④ 人と人とが触れ合う体験的な学びを軸にした創意ある取組を実践し、社会共生や地域貢献、キャリア教育に結び付く学びを実現する。

⑤ 児童の学びの深化ために、「呼ぶ」「関わる」「出かける」体験的実践を、意図的・計画的に行う。

⑥指導＝共通行動

○白金スタンダードをもとに児童が学習に集中できる環境をつくり、学力の基礎を培う。
○本時の「めあて」「活動」「まとめ」「振り返り」が必ずあり、児童が見通しをもち、振りかえられるようにする。（めあてやまとめは、児童の言葉で表記することで関心が高まる）
○1人1台のタブレットを学習ツールとして効果的に使用しながらも、ノート指導も並行して充実させる。
（見開き1ページで1時間）　基礎学力・活用力の習得＝重点的な取り組み
○思考力・判断力・表現力のみならず、学びに向かう力や人間性につながる、言葉を大切にした言語活動を、全ての教育活動において意識的に取り入れ、重視する。
○対話的な授業形態を意識し、少人数（3人程度）で意見を述べ合い調整する場を取り入れる。
○互いの良さを引き出し、生かし、尊重する学習を展開する。
○体験的な学習を取り入れるために、保護者や地域と連携する。

⑦目指す授業

○めあてを明確にした授業　○興味関心意欲を高め、知的好奇心を揺さぶり育てる授業
○自分の考えをもたせる授業　○友達と学び合い、自らの考えを広げたり深めたりする授業
○振り返りの時間をとり、1時間毎の評価を大切にする授業　○まとめを明確にした授業
◆複線型、自由進度学習を取り入れた授業
◆子供が自ら学習計画を立てたり、問いを立てたりする授業
◆子供が自ら自己調整しながら学習を進め、課題を解決していく授業
◆子供が自ら学び方のスタイルを決め、個別・協働を使い分けながら課題を解決していく授業

⑧本校・本区における特色的な学習

○地域の方、企業や団体、芸術関係機関とのコラボ授業
○漢字検定　○高松アカデミー研究の実施（年3回）　○学校運営協議会による授業評価
○東京ベーシックドリルの活用　○年間を通した読書活動の取り組み
○MINATO カリキュラムを活用した幼・小中連携によるスムーズな接続や指導の連続性
※教員が互いに学び合うOJT　※学力調査の結果分析と活用

6　健康でたくましい子を育てるために

自分の体・健康・安全について関心をもち、望ましい習慣を身に付ける

①日常の体育の授業での運動量を確保し、授業改善を図る。
②日常的な外遊びの奨励と意図的な環境設定を行う。
③運動習慣確立に向けた運動の取り組み（短縄跳び・長縄跳び）を行う。
④感染症や病気・けがに対応する知識をもち、自ら健康を創り維持していく力をつける。

【本校における具体的な活動】

○給食指導と関連させた食育学習　○外部講師を活用した体験授業（オリパラ・ラグビー・体力等）
○健康向上月間の実施（短縄・長縄）　○体力調査の課題を積極的に克服する活動
※学校保健委員会の充実　※体力調査等の結果分析と改善策の推進

7　特別支援教育の充実

児童の困り感に寄り添い、保護者と密に連携しながら適切な就学、学習環境の提供、進路指導に向けて全教職員の理解のもと、特別支援教育を行っていく。

①児童の個性を尊重し、一人一人に合った教育環境を提供し、学ぶ意欲を引き出す。
②定期的な研修会、ケース会議、スクールカウンセラーによる助言、関係機関との連携による個に応じた支援の充実を図る。
③障害者理解や交流・共同学習について、学校の教育活動全体での一層の推進を図る。その中でお互いの理解を深め合い、多様性を尊重する態度の育成を図る。

8　信頼される学校を目指して

～　最高の質を最高の効率で生み出すチーム　～　＝　Platinum Pride

(1)環境美築
◇訪れる方の視点・視線に立った美しさ　　◇目を留める納得する掲示物
◇狭小地でも工夫された教育環境

(2)笑顔　しなやか
◇笑顔で人を魅了する　◇物ごとにしなやかに対応する　柳の枝のごとく　◇笑う門には福は来る

(3)誠実
◇誠実さは人を助け、自分も助ける　　◇常に相手意識に立った対応

(4)スピード連携
◇情報と対応はスピードが命　　◇互いを認めた協力連携　協働　共助

(5)自ら高め合う教員
◇自ら指導力の向上を目指し研究・研修を行う
◇前例踏襲を控え、自分をバージョンアップ　温故知新

(6)教職員の勤務
◇体罰、服務事故ゼロ　　◇場に応じた服装と名札の着用
◇丁寧な接遇　◎電話対応「白金小学校　職員室○○です。」
◎来校者への挨拶・対応「こんにちは。どちらにご用事ですか？」

(7)報告・連絡・相談(ホウレンソウ)
◇30分ルール

(8)働き方改革への意識向上

(9)諸連絡や教育活動を伝える広報活動
◇学校だより　◇学年だより　◇学校ホームページ　◇緊急メール配信システム
◇まなびポケット　◇ツイッター　◇ブログ

(10)PTA行事や地域の行事に参加
◇PTA夏祭り、もちつき　◇地域ふれあい運動会　◇児童館祭り　◇白金小学校地域防災訓練

(11)各種調査(いじめ、体罰等)の調査結果に対し、迅速な対応

(12)学校評価の実施と改善

９　教職員の働き方改革

児童と向き合う時間の確保や授業準備の時間のため、教職員の健康の保持増進のため、働き方改革を推進する。

(1)会議を精選し効率化を図り、教材研究や児童と向き合う時間を作る。

(2)退勤時間を早めることを意識化する。

◇午後6時に退勤することを目指し、校務の効率化を図る。

◇毎週 水曜日は、定時退勤を目標とする。

◇長期休業期間中は、 毎日 定時退勤を目標とする。

(3)校務のICT化を進める。

◇Teams を活用していつでも教職員間で連絡事項を共有できるようにする。

◇週案をICT化し、紙ベースでなくデータで完結できるようにする。

◇教材の共有を推奨し教材研究の時間を削減する。

◇会議のペーパーレス化をはかり、全て Teams 内での閲覧・やり取りとする。

(4)テスト・ドリルの統一化を行い、学校で一つのプラットフォーム上で成績を管理し、業務の効率化や、成績の経年変化を捉えられるようにする。

(5)積極的な休暇取得の推奨(平日に休暇を取るプラチナホリデーの実施)や退勤時間の目標設定等を行うことで、ライフワークバランスを改善する。

(6)年間3回のオンライン授業を活用して、休暇の習得や研修会への参加を推進する。

(7)長期休業中を中心とした積極的なテレワークを実施する。

(8)スクールサポートスタッフ等の人材を活用し、業務の効率化を図る。

(9)校務分掌の省力化・効率化を目指していく。

１０　取り組みの報告及び評価

(1)今年度の取組状況については、保護者や地域の皆様に以下の方法で報告する。

◇学校だよりに掲載する。　◇学年だよりに掲載する

◇ホームページに掲載する。

◇X(旧 Twitter)で児童の様子や学校の取り組みを紹介する。

◇授業参観、学校公開日に特色ある教育活動について紹介する。

◇学校運営協議会で報告する。

(2)目標達成についての評価は、以下の方法で実施する。

◇児童アンケートを実施する。

◇保護者アンケートを実施する。

◇教員による内部評価を実施する。

◇学校運営協議会による評価を実施する。

※評価結果は、整理し考察を加え、年度末に保護者や地域の皆様にお知らせする。

１１　１５０周年の記念すべき年を迎え

(1)150周年の縁を生かし、白金小学校が一つになってお祝いする年にする。
(2)令和7年度の1年間の行事には、全て「150周年記念～～」と銘打つ。
(3)年間を通して、白金小学校の歴史や特徴、よさなどを紹介する機会をもつ。
(4)学習発表会の内容を、白金小学校150周年に関するものとし、その内容は。
　各学年の発達段階によって決める。
(5)式典は6年生が参加するものとし、6年生のアトラクションはそのまま学習発表会で
　発表する。
(6)式典は6年生だけが参加するので、全学年で「150周年記念集会」を行い、お祝いする。
(7)年間を通して周年イベント(例:町会の方の話を聞く会、有名OB・OGの方の話、
　近くの高校・大学とのコラボ企画、給食のメニュー　など)
(8)周年を機会に地域・PTA・学校が一体となってお祝いする機運を高める。
(9)周年記念祝賀会に際しては、全面的にバックアップ・協力し、成功に向けて邁進する。